境港の位置と概要

境港管理組合
-SAKAI PORT AUTHORITY-

○境港は、**鳥取県と島根県の両県にまたがる港湾区域を有し**、北方を島根半島により遮蔽されている天然の良港であり、日本海側有数の**国際貿易港**
○1896年(M29)に開港(神戸税関管内では神戸港に次ぎ2番目)、1951年(S26)重要港湾指定。
○後背地は鳥取県米子市、境港市及び島根県松江市、出雲市、安来市など人口約60万人、,製造品出荷額約9千2百億円(主な業種:食料品、パルプ・紙、電気機械、鉄鋼業)の圏域
○**港湾管理者は境港管理組合**(1958年(S33)設立、管理者:鳥取県知事、副管理者:島根県副知事)

外航クルーズ 国際フェリー RORO船

外港竹内南地区

地区名	主要施設	対象船舶
外港竹内南	-10mバース　300m	内貿RORO船, 国際フェリー船, クルーズ船

外港昭和南地区 木材チップ リサイクル

地区名	主要施設	主要取扱貨物等
外港昭和南	-13mﾊﾞｰｽ 270m	木材ﾁｯﾌﾟ
	-10mﾊﾞｰｽ 185m	金属くず
	-7.5mﾊﾞｰｽ 130m	

国際CT コンテナ

地区名	主要施設	主要取扱貨物等
外港昭和南	-14mﾊﾞｰｽ 280m	コンテナ貨物

外港中野地区 原木

地区名	主要施設	主要取扱貨物等
外港中野地区	-12バース　240m	原木

日本海側地域の経済発展に貢献(北東アジアゲートウエイ)

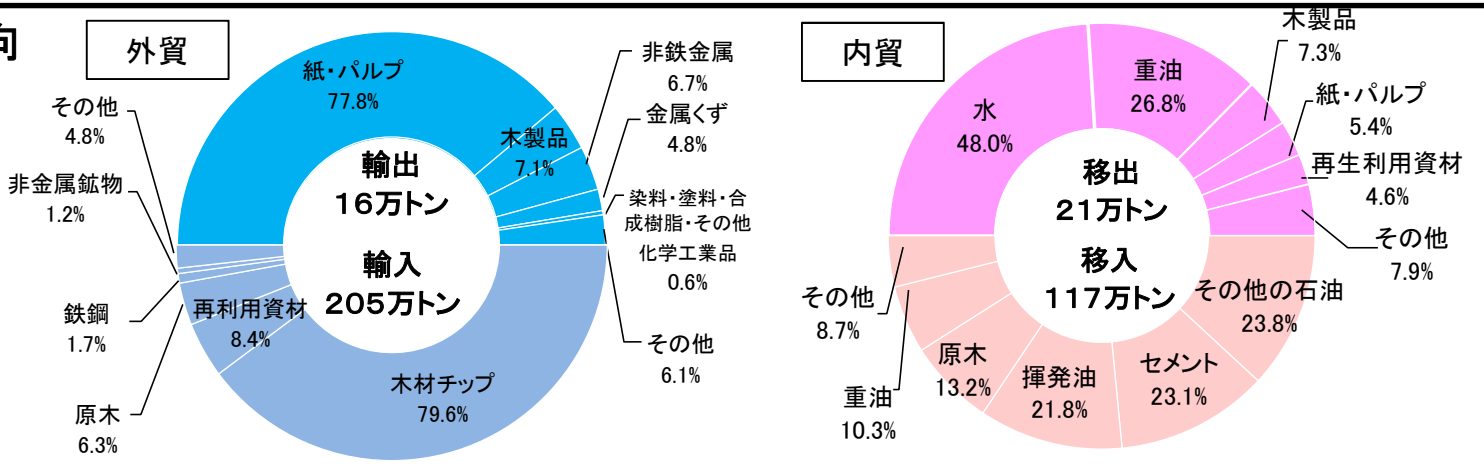
・日本海側拠点港(国際海上コンテナ拠点、原木拠点、外航クルーズ拠点)、リサイクルポート

境港の取扱貨物

境港管理組合
-SAKAI PORT AUTHORITY-

○境港の全体貨物量は、359万6,757トン（前年比3.5%増）。3年連続の増加であり、350万トン超となったのは2017年以来（6年ぶり）
○コンテナ取扱貨物量は2万2,304TEU（前年比8.2%増）。韓国航路（韓中航路含む）、国際フィーダー航路ともに増加に転じた。
○主な取扱貨物は、紙・パルプ、木材チップ。2022年からバイオマス燃料の再利用資材のPKSの取扱いが増えている。

■取扱貨物の傾向（2023年実績）



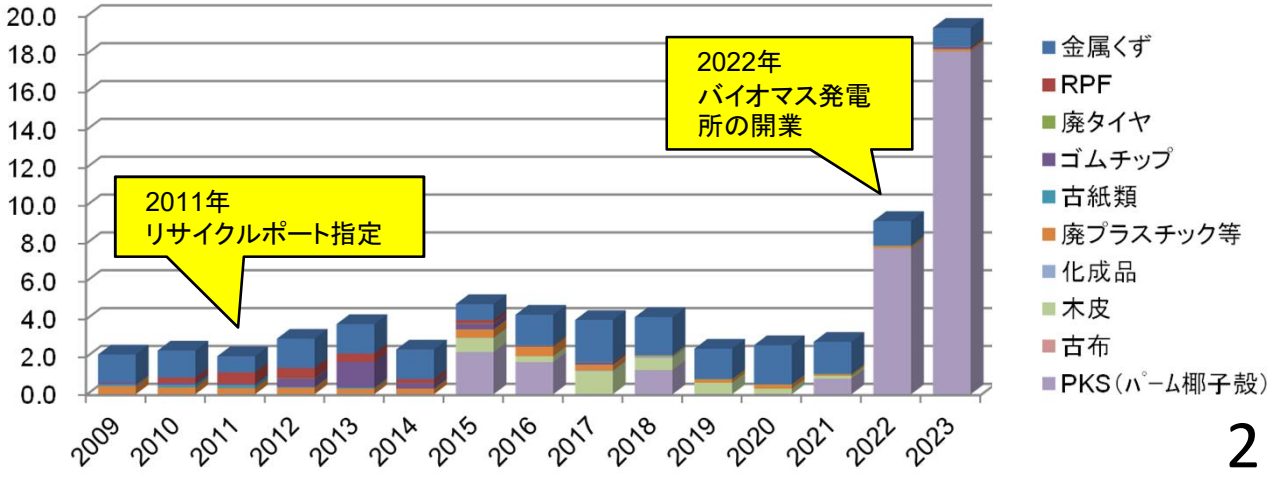
■取扱貨物（リサイクル貨物）の動向　（2023年実績）

- 2011年リサイクルポート指定から、リサイクル貨物の利用は順調に増加した。コロナ禍で取扱貨物は一時減少したものの、バイオマス発電開業による燃料の輸入により、取扱貨物は近年急上昇している。

（千トン）

＜取扱貨物の傾向＞

- 境港は山陰地区の金属くず輸出拠点港となっており、また、境港背後地域には、RPFや廃タイヤチップの燃料製造などのリサイクル産業が集積している。
- 近年の主な取扱貨物は、金属くず、PKSのほか廃タイヤ、ゴムチップ等
- 2022年バイオマス発電所の開業によりPKSの取り扱い量が大幅に増加



境港の取組成果及び課題

境港管理組合
-SAKAI PORT AUTHORITY-

- 境港背後圏には、リサイクル企業が多く立地しており、リサイクルポート指定以降、静脈物流の拠点として、広域的な物流網の構築及び港湾利用の促進に向けた取り組みを推進しています。

（課題）

- 国内の循環資源を扱う多くの企業が陸上輸送を利用しており、拠点港連携等による海上輸送の促進が必要。
- リサイクル貨物の港湾荷役に必要な荷役機械（ジブクレーン）の維持・更新に多額の費用が必要。

■主な出来事

年度	取組内容
2011	・リサイクルポート指定 ・境港リサイクルポート協議会設立
	・昭和南地区に港湾機能高度化施設整備事業を活用した積換保管施設を整備
2013	・4港合同リサイクルポート勉強会に参画（※酒田港（山形県）、能代港（秋田県）、姫川港（新潟県）） ・鳥取県と連携した企業誘致により、昭和南工業団地にリサイクル工場2社が進出
2022	・バイオマス発電所2箇所運転開始 ・境港にて4港勉強会を開催
2023	・石狩湾新港と金属くずの連携輸送について意見交換
2024	・昭和北地区廃棄物焼却発電施設（潮見コンビナート）運転開始 ・昭和町バイオマス発電所着工（R8運転開始予定）

■境港周辺の主なリサイクル企業立地状況